

長野県立総合リハビリテーションセンター

1 担当地域と担当者

(1) 担当地域

病院としての担当地域は、長野圏域及び北信圏域。(相談支援を含む)
障害者支援施設(施設部門)での受け入れは、長野県全域。

(2) 部門責任者 病院部門 医務次長・神経内科医 田丸 冬彦
施設部門 支援部長 鶴田 明生
相談部門 更生相談室長 伊東 正美

2 当センターにおける高次脳機能障害者支援事業の概要

平成 14 年頃から、高次脳機能障害の受診件数や相談件数が増加し、平成 15 年 5 月に高次脳機能障害支援対策検討会を発足させ、支援の体制作りを進めてきた。

当センターの病院部門(病床 80 床、整形外科・神経内科・内科・麻酔科・泌尿器科・リハビリテーション科)においては、外来診療、通院治療、入院治療、家族会活動等を行っている。

施設部門(定員 80 人)においては、平成 17 年度から、県単独事業である「高次脳機能障害者自立支援訓練事業」として受け入れを始めた。平成 20 年度からは、障害者自立支援法(現・障害者総合支援法)における「自立訓練事業(生活訓練)」として、支援を実施している。

更生相談室では、相談窓口としてセンター内外からの各種相談を受けると共に、高次脳機能障害者支援対策協議会の事務局、研修会の企画等を担っている。

(1) 病院部門

- ・個人からの相談や各病院からの紹介は更生相談室で受付をし、医師と相談の上、外来受診(予約制)、転院等の対応を決定している。
- ・入院もしくは外来にて、評価及びリハビリテーションを実施する。
- ・精神障害者保健福祉手帳、障害年金等の診断書作成のための診断を行う。
- ・入院中は、随時担当職員でケースカンファレンスを行い、支援方法を検討している。
- ・必要により、市町村、保健福祉事務所、障害者職業センターや障害者総合支援センター等と連携し、ケース会議の開催や、就労・生活の支援を行う。
- ・ニーズに応じて、入院から施設部門へ移行したり、外来通院にてフォローを継続している。
- ・「高次脳機能障害患者・家族の集い」を年 4 回開催している。内容は、学習会やレクリエーション、意見交換会など(表 3 参照)。
- ・高次脳機能障害者の配偶者の会を、年 4 回程度開催している。

(2) 施設部門(障害者支援施設)

<高次脳機能障害者自立支援訓練>

- ・模擬会社「ふるさと社」における訓練を中心として、PT、OT、ST(病院部門外来)、職業訓練を適宜組み合わせ、1 日を通した訓練を実施している。午後の集団活動では、定例の活動としてのエコバック作りやペットボトルキャップの回収の他に、特別活動として、訓練指導員の計画による職場見学や、心理士による SST、OT による高次脳機能障害の講義等を実施し、多職種が訓練に関わっている。入所利用による訓練は、生活状況を観察する中で、日常生活、対人関係等を把握することができるため、必要な支援を行いやすいメリットがある。
- ・復職を目指す人には、職場訪問や障害者職業センター、各圏域の就業支援ワーカー等との連携を行っている。福祉的就労を目指す人には、施設見学や体験実習等の支援を行っている。

- ・生活支援課では、本人・家族を交えた「支援計画検討会議」を定期的を開催し、リハビリテーションの方針について協議している。
- ・定期的に医師、OT、訓練指導員、生活支援員、心理士等でケース検討会を行っている。また、支援方法について検討する関係職員のミーティングを、月1回行っている。

<障害者支援施設利用者への支援>

- ・施設利用者の中で、身体障害に合併して高次脳機能障害をもつ方に対しては、機能訓練（作業療法）において、高次脳機能障害に対する訓練を実施している。身体機能訓練、ADL訓練、職業訓練の中で、並行して高次脳機能訓練が行われる。

(3) 相談部門（更生相談室）

- ・高次脳機能障害の当事者、家族、関係機関等からの相談に応じている。また、他院からの紹介患者の受付窓口になっており、地域連携の機能も担っている。外部からの相談のほか、入院中や施設利用中の方の相談、心理学的判定や面接による心理ケア等を行っている。
- ・施設利用に関する相談窓口、手続きは、更生相談室の身体障害者福祉司が担当している。
- ・当センター内に高次脳機能障害支援対策協議会が設置されているが、その事務局として、全体的な施策の推進に関わる取りまとめを行っている。また、北信地域の高次脳機能障害研修会の企画等を行っている。
- ・「高次脳機能障害患者・家族の集い」に参加する家族から自主的な会を持ちたいとの相談を受け、平成25年1月に「親の会」を、平成26年5月に当事者・家族を対象とする「高次脳機能障害をじっくり話す会」の立ち上げを支援した。現在はオブザーバーとして会に参加し、側面的に支援している。

3 平成26年度の高次脳機能障害に関する取り組み

(1) 研修会等の開催状況

平成26年度の研修会（内部のものは除く）の開催状況、講師派遣状況等は、以下のとおりである。

表1 高次脳機能障害の研修会（主催）

開催日	研修会名	開催場所・参加者数	内容・講師等
平成26年 9月27日	高次脳機能障害 研修会 (北信地域)	場所：長野県教育会館 参加者数：103名 (一般23、医療35、 福祉21、行政・教育5、 実行委員19)	【内容】 ①講演：「福祉サービス・社会資源につな がりにくい方への対応」 講師：神奈川リハビリテーション病院 瀧澤学氏 ②北信地域での取り組みや社会資源の紹介 ③家族の声

表2 講師派遣・学会発表等

実施日	学会・研修会等のテーマ	開催場所	講師・助言者	参加人数
平成26年 4月20日	長野県言語聴覚士会学術分科会 「高次脳機能障害」	相澤病院 ヤマサホール	ST 竹内洋彦	34名
6月5日	長野県言語聴覚士会北信地区高次脳機能 障害勉強会 「注意障害・遂行機能障害 ケースの症例検討」	当センター	ST 竹内洋彦	10名
7月24日	長野市社会福祉協議会北部事業部研修会 高次脳機能障害勉強会	長野市	講師：OT 鶴田真由美 助言者：OT 松井典子、 柴田彰子	25名

9月13日	長野県作業療法士会市民公開講座 「脳卒中や頭部外傷等による高次脳機能障害の理解と生活支援について」	松本市	講師：OT 松井典子 助言者：OT 鶴田真由美	15名
12月4日	長野県言語聴覚士会北信地区高次脳機能障害勉強会 「文の理解について」	当センター	ST 竹内洋彦	9名
平成27年 1月24日	高次脳機能障害研修会（東信地域）	佐久勤労者福祉センター	医師 田丸冬彦	120名
1月29日	長野北信地区身体障害作業療法研究会 「遂行機能とその障害」	当センター	医師 田丸冬彦	54名
3月5日	長野県言語聴覚士会北信地区高次脳機能障害勉強会 「純粋失書とそのリハビリ」	当センター	ST 竹内洋彦	7名

(2) 高次脳機能障害患者・家族の会の実施状況

家族支援事業として、平成18年度より看護部主催で、患者家族会「高次脳機能障害患者・家族の集い」を開催している。病棟看護師を中心に、他部門の協力を得ながら、当センターを利用してある当事者・家族を中心に呼びかけて実施している。また、保健福祉事務所・市町村保健師や、行政関係者、地域の支援関係者にも参加についての情報提供をしている。

平成22年9月より、高次脳機能障害の配偶者の会を2～3ヶ月に1回の頻度で開催しており、配偶者の立場ならでの思いを語り合ったり、支え合いの場となっている。

表3 平成26年度の「高次脳機能障害患者・家族の集い」の実施状況

日時	内容 (学習会・レクリエーション・意見交換会)	当事者・家族 参加人数	支援者等 参加人数
平成26年 6月14日	サンアップルにて卓球大会	34名	2名
9月6日	学習会「高次脳機能障害について」	38名	0名
12月16日	学習会「記憶障害に対する訓練」	37名	0名
平成27年 2月28日	学習会「高次脳機能障害患者・家族の集いと私の思い」	36名	0名

表4 平成26年度の高次脳機能障害 配偶者の会の実施状況

日時	内容	参加人数
平成26年 4月16日	高次脳機能障害という同じ悩みを持つ配偶者が、普段抱えている思い・悩み・体験などを語り合い、精神的なフォローや気持ちの共有化を図っている。	4名
7月17日		9名
10月15日		3名
平成27年 1月14日		4名

4 平成26年度の高次脳機能障害に関する相談件数

(1) 総数（更生相談室における相談件数）

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不明	合計
男	2	10	14	29	21	21	6		103
女		3	1	3	2	4		4	17
不明	1								1
計	3	13	15	32	23	25	6	4	121

※面接相談、電話相談の件数。尚、外来患者、入院患者も含む。

(2) 外来診察件数（新患のみ）

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男	1	3	1	3	3	3	1	15
女							1	1
計	1	3	1	3	3	3	2	16

(3) 入院件数

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男	1	1	2	1	3	1		9
女				1		1		2
計	1	1	2	2	3	2	0	11

(4) 退院後の状況

区分	復職	休職中	復学	職リハ	福祉的就労	施設入所	転院	在宅	合計
人数	1		2					4	7

(5) 原因疾患

疾病区分	脳血管障害	外傷性脳損傷	低酸素脳症	脳腫瘍	脳炎	その他	不明	合計
男	10	4	1		2	2		19
女	2			1				3
計	12	4	1	1	2	2	0	22
肢体不自由	1			1				2

※肢体不自由欄は、肢体不自由を有する者を再掲した。

5 高次脳機能障害者自立支援訓練「ふるさと社」利用者数

(1) 平成26年度中の在籍者数

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男			1	2	2			5
女								0
計			1	2	2			5

(2) 原因疾患

疾病区分	脳血管障害	外傷性脳損傷	低酸素脳症	脳腫瘍	脳炎	その他	不明	合計
男	4				1			5
女								0
計	4				1			5
肢体不自由	0				0			0

※肢体不自由欄は、身体障害者手帳のみを有する者の再掲。

6 平成 26 年度の傾向

- ・ 初診患者数は 22 名で、平成 21 年度以降最も少なかった。過去最も多かった前年度（39 名）と比較すると大きく減少したものの、年度毎に増減しながら一定範囲内で推移している。初診患者の平均年齢は 47.5 歳で、過去の平均とほぼ同様であった。男女比は、男性 19 名、女性 3 名と偏りがあり、女性の高次脳機能障害者が対応されていない可能性も窺える。発症から初診までの期間は、約 3 分の 2 が半年以内であるが、10 年以上の方も 2 割強おり、二極化が見られる。
- ・ 高次脳機能障害に関する相談の実人数は、121 名と過去最多だったが、これまでの傾向を見ると、平成 24 年度以降は概ね一定レベルに達していると推測される。
- ・ 「高次脳機能障害患者・家族の集い」は、毎回約 30～40 名の参加があり、学習会・意見交換会・レクリエーションを柱とした内容で行われている。今年度は長野県障害者福祉センターサンアップルの職員に協力いただき、卓球大会を企画したところ、当事者や家族から好評を得た。
- ・ 北信地域の高次脳機能障害研修会では、支援が必要な方々を適切な福祉サービスや地域の社会資源につなぐことをテーマとした。今年度は特に、脳卒中連携パスに参加する医療機関等への案内に力を入れ、研修会の主な対象と想定していた医療機関の方々に多数参加いただけた。
- ・ 高次脳機能障害者自立支援訓練「ふるさと社」では、利用者が 5 名と少ない状況であったが、日々の訓練支援に加え、職場実習・作業所実習を実施し、前後で就労支援のための会議を行い、3 名が復職、2 名が福祉的就労とすることができた。
- ・ 施設部門では、支援の担い手を増やし地域の受け皿を充実させたり、情報交換等により連携を強化するため、地域の障害福祉サービス事業所等の職員を対象とする学習会を開催した。
- ・ 当センター主催の「患者・家族の集い」に参加している家族と当事者が発起人となり、「高次脳機能障害をじっくり話す会」を立ち上げた。平成 24 年度に立ち上げられた「親の会」に続く 2 つ目の自主的な会であり、試行錯誤しながら活動を進めている。
- ・ 佐久総合病院の企画で、高次脳機能障害研修会（東信地域）の終了後、佐久総合病院の患者会「虹の会」と当センターの患者・家族との交流会を行った。当センターの患者・家族にとって、他圏域の患者会と交流する初めての機会となった。

7 今後の課題

- ・ 社会的行動障害が強いため、家族が対応に苦慮したり、日中活動の場に定着しにくいケースが少なくない。そのような方への対応が十分できておらず、以前からの課題となっている。
- ・ 比較的高齢な方や就労が難しい方で、退院後に地域の社会資源や福祉サービスを利用せず、在宅で家族の負担が大きくなっていたり、適切な支援を受けられていないケースも見られる。そのような方たちへの対応も課題となっており、社会資源や福祉サービスの充実が望まれる。
- ・ 地域の障害福祉サービス事業所等の職員を対象とする学習会を引き続き開催して、地域の受け皿の充実や連携の強化を図りたい。
- ・ 障害者職業センターや障害者総合支援センター等の関係機関と連携して、就労支援をより一層充実させていきたい。
- ・ 家族や当事者の主体的な活動が広がっていくように、側面的な支援を継続したい。